

令和5年度

事業報告書



社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会

理念

尾鷲市のだれもが
安心して生活できるまちづくりをすすめていく

職員心得

- 一、笑顔であいさつ
- 一、責任ある行動
- 一、思いやりを持って接する

目次

I	地域福祉課	
	総務・福祉係.....	1
II	生活支援課	
	生活支援係.....	20
III	高齢者支援課	
	地域包括支援センター.....	35
IV	障がい支援課	
	紀北地域障がい者総合相談支援センター結.....	41
V	居宅介護支援課	
	居宅介護支援事業所.....	52
VI	訪問介護事業課	
	訪問介護事業所.....	55
VII	訪問入浴事業課	
	訪問入浴事業所.....	58
VIII	尾鷲通所介護事業課	
	尾鷲社協デイサービスセンターいきいき.....	59
IX	輪内高齢者サービスセンター	
	輪内デイサービスセンター.....	61

I 地域福祉課

総務・福祉係

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり理事会並びに評議員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 令和5年6月8日 出席者 13名

- 議題
- ・ 令和4年度事業報告について
 - ・ 令和4年度決算について
 - ・ 令和5年度【第1回補正予算】資金収支予算について
 - ・ 評議員選任候補者の推薦について
 - ・ 評議員選任・解任委員会の招集について
 - ・ 令和5年度定時評議員会の招集について

その他・社会福祉充実残額について

第2回 令和5年6月23日 出席者 13名

- 議題
- ・ 会長の選任について
 - ・ 副会長の選任について
 - ・ 常務理事の選任について

第3回 令和5年12月7日 出席者 13名

- 議題
- ・ 令和5年度【第2回補正予算】資金収支予算について
 - ・ 令和5年度第2回評議員会の招集について

その他・ヘルパー不足について

第4回 令和6年3月7日 出席者 12名

- 議題
- ・ 令和5年度【第3回補正予算】資金収支予算について
 - ・ 令和6年度事業計画について
 - ・ 令和6年度【当初予算】資金収支予算について
 - ・ 評議員選任候補者の推薦について
 - ・ 評議員選任・解任委員会の招集について
 - ・ 令和5年度第3回評議員会の招集について

その他・次回の理事会について

(2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加

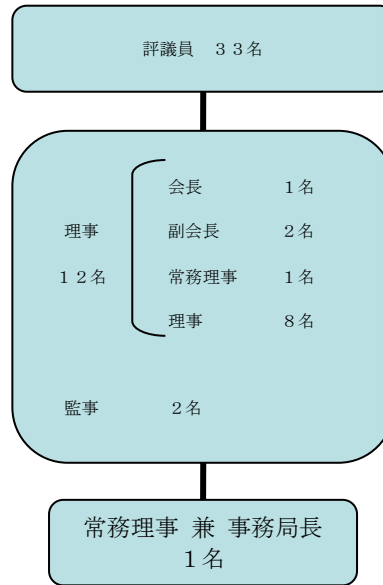
資格取得の状況	介護支援専門員	1名
	主任介護支援専門員	1名
	認知症介護基礎研修修了	3名

(3) 活動基盤の改善・充実

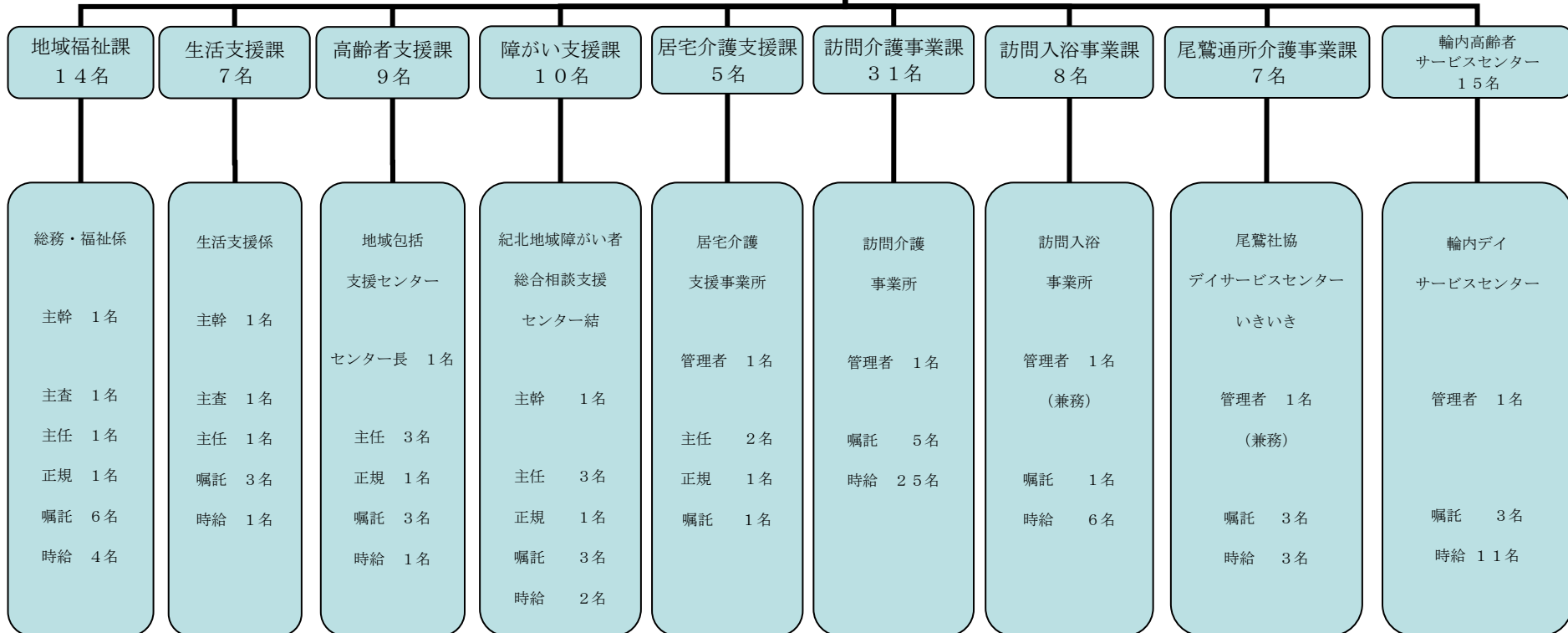
会計・税務顧問契約の締結

関係法令等の改正により、高まる会計・税務の専門性に対応するため、引き続き税理士法人と顧問契約を締結し、適正な運営に努めた。

令和5年度 尾鷲市社会福祉協議会
業務体制 (令和6年3月末日現在)



職員数	105名
(内訳)	
正規職員	22名
嘱託職員	30名
時給職員	53名
〈前年度職員数109名〉	



3. 地域福祉財源の確保

(1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保

(2) 自主財源の確保

① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】 一般預託	6 件	367,798 円
指定預託	0 件	0 円
合 計	6 件	367,798 円

※前年度合計 11 件 600,510 円

【物品】 防災用発電機 1 台

② 社協賛助会費制度の運営

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、民生委員児童委員、地区福祉委員会などの協力、連携により賛助会費の募集を行い、地域福祉活動の財源確保に努めた。

(単位：円／件)

	令和 5 年度		令和 4 年度	
	金額	件数	金額	件数
賛助会員	926,000	865	880,000	831
特別会員	265,000	32	270,000	34
計	1,191,000	897	1,150,000	865

4. 福祉団体活動支援

(1) 尾鷲市老人クラブ連合会の活動支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに、社会奉仕活動への積極的な参加促進を支援した。

① 老人クラブ連合会活動の支援

17 クラブ・会員数 714 名

② 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催

10 講座 1,478 名 (前年度 6 講座 777 名)

(2) 尾鷲市遺族会の活動支援

遺族会の活動を支援した。

① 尾鷲市戦没者追悼式（尾鷲市との共催）

開催日：令和5年6月3日

場 所：尾鷲市民文化会館

参加者：100名

5. 苦情解決事業

苦情に対して社会性・客観性を確保するため第三者委員会を設置し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を行うため、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

(1) 苦情解決体制

苦情解決責任者 事務局長

苦情受付担当者 総務・福祉係長

第三者委員 3名委嘱

(2) 苦情内容・苦情件数

(単位：件)

苦情の内容	令和5年度	令和4年度
ケアの内容に関わる事項	0	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他 (職員の言動・交通マナー・施設管理)	0	0
本会以外への苦情等	0	0
合計	0	0

6. マイクロバス貸出事業

マイクロバスを貸出して、各種団体の活動支援を行った。

利用団体：15団体（前年度 11団体）

利用回数：延べ33回（前年度 延べ19回）



7. ご当地キャラクター

尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこヤーヤにゃんを用いて尾鷲の観光PRをするとともに、福祉へのイメージアップを図った。

(1) 出演

職員がスタッフとして市内外のイベント出演。

出演回数：0回（前年度0回）

(2) 貸出

着ぐるみの貸出しを行った。貸出回数：5回（前年度12回）

(3) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。件数：6件（前年度3件）

8. 地域福祉活動の推進

(1) 地域福祉活動支援事業

① 地区福祉委員会の活動基盤強化

ア. 活動相談

イ. 地域課題解決に向けた支援

ウ. 活動の周知啓発

エ. 助成事業（基本助成、活動助成、新規結成助成）

◇ 基本助成（地区福祉委員会の運営費および活動費として）

助成数・助成額：14団体 280,000円

◇ 活動助成（各地区独自の活動費として）

助成数・助成額：14団体 380,000円

② ふれあいサロン活動の推進

ア. おしゃべりほのぼのサロン事業

高齢者の生きがいづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロンを職員とボランティアの協力で実施した。須賀利地区は昨年度で終了し、今年度は試験的に三木里地区で2回開催した。

のべ参加者数

（単位：人）

	尾鷲	九鬼	早田	三木里	合計
参加人数	41	35	46	15	137
前年度	63	54	43	0	160

イ. 百寿雀サロン事業（共同募金配分事業）

百寿雀を活用したふれあいサロンづくりを模索するため、体験会を実施した。

参加人数：福祉保健センター のべ333人（21回）

矢浜コミュニティセンター のべ204人（24回）

三木里コミュニティセンター のべ212人（20回）

九鬼コミュニティセンター のべ151人（21回）

宮之上小学校 のべ126人（8回）

計 1,026人（94回）

前年度 426人（46回）



ウ. 助成事業（ふれあいサロン助成）

ふれあいサロン活動に取り組む団体に対して助成金による活動支援を行った（共同募金配分事業）。

助成額：98,750円（5団体）

活動実績

実施団体	回数	のべ参加人数
梶賀地区福祉委員会	4	105
曾根地区福祉委員会	12	122
天満地区福祉委員会	2	37
古江地区福祉委員会	1	30
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	11	252
合計	30	546



③ ふれあい・見守り訪問活動の推進

ア. 助成事業（あったかふれあい訪問活動助成、友愛活動助成）

◇ あったかふれあい訪問活動助成

地区福祉委員会が行うふれあい訪問活動に対し、助成金による活動支援を行い、住民主体による福祉ニーズの発見を促進した。

助成額：922,000円（14地区）

活動実績

地区福祉委員会	回数	のべ訪問件数
三木浦地区福祉委員会	3	360
矢浜地区福祉委員会	2	262
倉ノ谷地区福祉委員会	2	182
三木里地区福祉委員会	3	317
古江地区福祉委員会	5	579
坂場地区福祉委員会	4	506
曾根地区福祉委員会	2	92
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	2	189
泉地区福祉委員会	3	144
新田地区福祉委員会	2	273
なみき地区福祉委員会	3	636
梶賀地区福祉委員会	2	105
天満地区福祉委員会	4	233
九鬼地区福祉委員会	1	138
計	38	4,016



◇ 友愛活動助成

尾鷲市老人クラブ連合会が行う友愛活動に対し、助成金による活動支援を行った（共同募金配分事業）。

助成額：119,000円

活動実績

取り組みクラブ数	のべ訪問件数
17クラブ	501名

④ 子育て支援事業の推進

ア. 子育て応援イベントの開催（共同募金配分事業）

子育てめっけもん広場のオープニングイベントとして『あそびの広場』を開催し、エアジャンプ、紙芝居、制作（6月は紙皿のおきあがりこぼし、12月は紙コップツリー）などを行った。

会場 尾鷲市福祉保健センター1階ロビー

開催日 第1回 令和5年6月17日（土） 参加者 113名
 第2回 令和5年12月9日（土） 参加者 90名



イ. 子育てグッズのリサイクル（共同募金配分事業）

◇ 子育て用品「無料レンタル」

不要となったチャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッドの寄付を受け、必要とする方に無料で貸し出した。

利用件数：39件（前年度 30件）

◇ 子育て用品の譲り合い仲介

チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッド以外の不要子育て用品について、譲り合いの仲介を行った。

仲介件数：2件（前年度 3件）

◇ 子育てめっけもん広場

不要となった子育て用品の譲り合いを支援するため、交換会「子育てめっけもん広場」を開催した。

第1回 令和5年6月17日（土）～26日（月）

提供者 32名

来場者 84+113（イベント）=197名

第2回 令和5年12月9日（土）～18日（月）

提供者 43名

来場者 109+90（イベント）=199名



⑤ 療育支援事業の推進

ア. 療育教室（すまいる教室）の開催

- ・ 1時間30分～45分の教室（サーキット、リトミック、課題、視聴覚教材等）を実施し、障がい児や発達のおこになる子どものグループ療育支援を行った。3歳未満グループ48回 3歳以上の6グループ24回
- ・ クリスマス会の実施（フラワーアレンジメント、ヤーヤにやんサンタからのプレゼント、ジグリング、パネルシアター等）
- ・ 保育士を中心に、言語療法士など専門職による専門療育。
- ・ 言語聴覚士による保護者対象の研修『ことばのおはなし』
- ・ 感染対策として大人はマスク等を使用し、換気や消毒を行う。
- ・ 未就学児は親子参加を基本とし、保護者の孤立を防ぐとともに相談や交流の機会とした。
- ・ 未就学児のカンファレンス年2回、実人数20名、延べ35名
参加者：担当保育士、保健師、言語聴覚士、療育スタッフ等

参加状況

（単位：人）

区分	実人数	のべ人数
尾鷲市	27	338
紀北町	13	115
計	40	453

(2) ボランティア・市民活動センター事業

① ボランティア団体の活動支援

ア. 活動相談：4件

イ. 地域課題解決に向けた支援

◇ 住民参加型生活応援事業「助っと」

令和4年度に立ち上げた、住民同士の助け合いのしくみ「助っと」を継続実施。買い物支援、ごみ出し支援などを実施した（共同募金配分事業）。

3月31日現在

会員登録（単位：人）	支援会員	17
	利用会員	28
実施状況（単位：回）	買い物代行支援	87
	ごみ出し支援	380



◇ 輪内買い物支援「いこらい」実証実験

住民ボランティアと協働した買い物支援を、曾根町、梶賀町、古江町、にて実施。また、新たに九鬼町で実証実験を行った（共同募金配分事業）。

3月31日現在（単位：人）

利用登録	曾根町	8	
	梶賀町	12	
	古江町	21	
	九鬼町	17	
	計	58	
実施状況	曾根町・梶賀町（年間）	111	
	古江町（年間）	112	
	九鬼町	1月19日	8
		2月16日	11
		3月15日	8
計	250		



ウ. 助成事業（ボランティア活動助成）

登録ボランティア団体を対象に、ボランティア・市民活動の促進及び充実を図ることを目的として助成金による支援を行った。

助成額：132,622円（7団体）

活動実績

助成団体	内容
おわせ食の会（前：食改協）	シニアカフェ、食の啓発
オンツツジを育てる会	環境保全活動
ウェークエンドの会	障がい者の社会参加の場づくり
尾鷲藪漕隊	自然体験サポート、古道整備
スポレクおわせ	社会参加促進・イベント講師
天狗倉山まるごとプロジェクト	世代間交流、環境保全
声のボランティアやまびこの会	視覚障害者の音訳CD作成

②ボランティア活動保険の加入補助

ア. 助成事業（ボランティア活動保険加入助成）

登録ボランティアを対象にボランティア活動保険の加入促進を目的として助成金による支援を行った。

助成額：37,100円（371名）
加入数：561名

③災害ボランティア育成（共同募金配分事業）

ア. 災害ボランティアコーディネーター養成講座

災害ボランティアのしくみづくりのための人材育成として、2日間の災害ボランティア養成講座を開催した。

第1回

開催日：令和5年9月2日（土）

会場：尾鷲市中央公民館3階 講堂

内容：『災害時におけるボランティア活動』

講師：みえ災害ボランティア支援センター 代表 山本康史 氏

参加者：18名

第2回

開催日：令和5年9月9日（土）

会場：尾鷲市中央公民館3階 講堂

内容：『災害ボランティアセンターの役割』

講師：尾鷲市社会福祉協議会職員

参加者：18名

イ. 防災講座（災害ボランティア講座）

災害ボランティアの活動に関心を持ってもらうきっかけづくりとして、災害ボランティア講座を開催した。

開催日：令和5年9月30日（土）

会場：尾鷲市福祉保健センター4階 多目的ホール

内容：『災害時のトイレに足してほしいこと』

講師：チーム・トイレの自由 代表 長谷川 高士 氏

参加者：45名



④災害ボランティアセンターの基盤強化

災害ボランティアセンター関係者会議

東紀州ブロック社協広域連携協議会で、災害時の広域連携を想定した初動期における社協間の連携シミュレーションの確認・見直しを行った。

第1回 開催日：令和5年8月8日（火）

会場：熊野市保健福祉センター

第2回 開催日：令和5年9月29日（金）

会 場：熊野市保健福祉センター

第3回 開催日：令和6年1月24日（水）

会 場：熊野市保健福祉センター

⑤福祉教育の推進

ア. 子ども福祉スクール事業（共同募金配分事業）

◇ 手話体験教室（小学生対象）

開催日：令和5年8月19日（土）

会 場：尾鷲市福祉保健センター 3階児童コーナー

参加者：12名（児童10名、保護者2名）



イ. 福祉教育プログラムの提供

福祉協力校に対して、福祉教育プログラムを作成し、様々な授業で活用した。



ウ. 福祉作品コンクールの募集

福祉教育の一環として、小・中学生を対象に、福祉をテーマにした『標語』とその標語に込めた『想い』を募集し、入賞作品を表彰した（共同募金配分事業）。

応募総数 380点

表彰者	小学校低学年の部	3名	小学校中学年の部	3名
	小学校高学年の部	3名	中学校の部	4名

⑥助成金による福祉教育の推進

ア. 助成事業（福祉教育助成金）

福祉協力校（小学校5校、中学校2校、高校1校、特別支援学校1校）を指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った（共同募金配分事業）。

助成金額 7校 254,193円

活動実績

福祉協力校	内容
尾鷲小学校	手話体験、環境美化、募金・広報活動
宮之上小学校	福祉の授業、ボランティア・募金活動
矢浜小学校	施設慰問、環境学習
向井小学校	施設慰問、奉仕活動、地域交流活動
賀田小学校	環境美化、地域交流
尾鷲中学校	—
輪内中学校	地域交流、環境整備、人権教育
尾鷲高校	—
くろしお学園おわせ分校	環境美化・清掃、地域交流

(3) 生活支援体制整備事業（尾鷲市からの受託事業）

① 生活支援コーディネーターの配置（2名）

ア. 活動内容

（単位：回）

活動内容	件数
アセスメント（情報収集・課題分析）	31
相談対応	26
連絡・調整	78
支援活動のコーディネート	16
ケア会議	1
地域での協議	9
関係機関との協議	4
周知・啓発	6
人材育成	1
その他	15
のべ活動回数	187

② 地域における協議体制の整備

市内を第一層（尾鷲市全体）、第二層（日常生活圏域）、第三層（各町）に分け、それぞれの階層で地域の生活支援を協議する場を整備した。

ア. 地域支え合い応援隊会議の運営（第一層協議体）

尾鷲市全体のことを話し合う協議体としての地域支え合い応援隊会議を開催し、生活支援体制整備の現状確認や今後の方針について協議した。

	開催日	協議内容
第一回	令和5年 9月14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 通いの場づくりの取り組みについて ✓ 住民参加型生活応援事業「助っと」 現況報告
第二回	令和6年 3月19日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 令和5年度実施事業についての報告

イ. わごころ会議の運営（第二層協議体）

日常生活圏域での協議体として、わごころ会議を開催し、具体的な生活支援活動について協議した。

内 容：住民参加型生活応援事業「助っと」について
開催日：令和5年9月7日（木）



ウ. 地域福祉懇談会の運営（第三層協議体）

より身近な地域で話し合う協議体として、地区懇談会を開催し、具体的な生活支援活動について協議した。

（九鬼、古江、曾根、梶賀）

③ 地域の支え合い活動に関する周知・啓発

地域活動の紹介通信「わごころ通信」の発行（10月・3月）

全戸を対象に地域における支え合い活動の見える化を目的として、地域活動を紹介する「わごころ通信」を発行した。

第9号：「こもれびボランティア」の紹介、「令和4年度地域支え合いドライバー養成講座」の報告

第10号：輪内買い物「いこらい」の実施状況報告、「わがらの町の暮らしささえ合い塾」第1回の内容紹介

④ 生活支援サポーターの養成

生活支援サポーター養成講座「わがらの町の暮らしささえ合い塾」を開催し、住民の支え合い意識の向上を図るとともに、地域における支え合い活動のきっかけづくりを行い、延べ79名の参加をいただいた。

- 第1回 開催日：令和6年1月17日（水）
 内 容：健康寿命を延ばすには？～社会参加の重要性～
 講 師：ご近所福利クリエイター 酒井保 氏
 参加者：25名
- 第2回 開催日：令和6年1月31日（水）
 内 容：公的支援の隙間とささえ合い
 講 師：尾鷲市地域包括支援センター職員
 参加者：18名
- 第3回 開催日：令和6年1月31日（水）
 内 容：尾鷲市内におけるささえ合い活動を紹介！
 講 師：尾鷲市社会福祉協議会職員
 参加者：15名
- 第4回 開催日：令和6年2月7日（水）
 内 容：移動支援の必要性とささえ合い
 講 師：尾鷲市社会福祉協議会職員
 参加者：21名

⑤ 移動支援の担い手の養成

移動支援の担い手育成を目的に、福祉有償運送運転者及びセダン等運転者講習

開催日：令和6年2月24日（土）・25日（日）

会 場：尾鷲市福祉保健センター

内 容：福祉有償運送運転者・セダン等運転者講習（講義＋実技）

講 師：全国移動サービスネットワーク認定講師

参加者：7名



(4) 援護事業

① ひとり親世帯就学応援事業

ひとり親家庭の小学校卒業児童に対し、中学校への就学応援品として図書カードを贈呈した（共同募金配分事業）

対象児童 22名（前年度 22名）

② 災害義援金・海外救援金の募集

（単位：円）

義援金・救援金	寄付額
令和5年5月能登地方地震災害義援金	100

令和5年台風第2号等大雨災害義援金（静岡県、茨城県）	220
令和5年7月7日からの大雨災害義援金（福岡県、佐賀県、大分県、島根県）	300
令和6年能登半島地震災害義援金	1,755,728
ウクライナ人道危機救援金	18,330
2023年トルコ・シリア地震救援金	18,241
合 計	1,792,919

※日本赤十字社を通じて寄付

③ 災害時援護事業

市内で発生した火災の被災世帯に対し、救急セットと毛布、見舞金を配布した。

被災件数：1件（1世帯）

配布物：救急セット1個 毛布4枚 見舞金

(5) 広報啓発事業

① 尾鷲市社会福祉大会（尾鷲市との共催）

多年にわたり社会福祉事業・社会福祉活動に功績のあった方々を顕彰するとともに、社会福祉のさらなる充実を目指すことを目的に、尾鷲市社会福祉大会を開催した。

開催日：令和5年11月23日（木）

場 所：尾鷲市中央公民館

内 容：第一部 顕彰

尾鷲市長表彰 14名

尾鷲市社会福祉協議会会長表彰 10名

第二部 福祉作品コンクール表彰 13名

実践報告『尾鷲市内での助け合いのしくみについての取り組み発表』

尾鷲市社会福祉協議会職員



② 広報紙「社協だより」の発行

年4回（5月・7月・10月・3月）広報紙「おわせ社協」を発行した。

③ ホームページ、Twitter、Facebookでの情報発信

ホームページ、Twitter、Facebookを活用し、情報発信を行った。

(6) 募金活動支援

① 赤い羽根共同募金（三重県共同募金会）への協力

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者と共に、募金活動に協力した。

一般募金（運動期間：令和5年10月1日～令和6年3月31日）

募金実績 (単位：円)

	令和5年度	令和4年度	比較
目標額	2,450,700	2,475,200	▲24,500
実績額	1,991,701	2,071,333	▲79,632
達成率	81.2%	83.6%	▲2.4%

募金種別による内訳

(単位：円・件)

	令和5年度		令和4年度		比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別	953,369	2,505	1,087,687	2,759	▲134,318	▲254
法人	612,664	101	621,935	106	▲9,271	▲5
街頭	74,732	5	56,675	4	18,057	1
学校	66,546	8	56,656	8	9,890	0
職域	155,465	27	134,926	24	20,539	3
イベント	26,504	6	20,642	5	5,862	1
個人	16,500	3	3,500	2	13,000	1
その他	85,921	34	89,312	39	▲3,391	▲5
計	1,991,701	2,689	2,071,333	2,947	▲79,632	▲258

② 日赤募金（日本赤十字社三重県支部）への協力

日赤奉仕団（尾鷲市婦人の会連絡協議会）、自治会等の協力を得て、募金運動に協力した。

社資増強運動期間：令和5年5月1日～5月31日

募金実績 (単位：円)

	令和5年度	令和4年度	比較
目標額	2,533,000円	2,595,000円	▲62,000円
実績額	1,656,534円	1,616,563円	39,971円
達成率	65.3%	62.2%	3.1%

Ⅱ 生活支援課

生活支援係（おわせ生活サポートセンター クローバー）

1. 総合相談

(1) 総合相談事業

① 総合相談事業

「だれもが安心して生活できるまちづくりを進めていく」という当会理念のもと、相談者の悩みに寄り添い、相談対応した。

困りごとの早期解決・早期脱却に向け、金銭貸付、家計改善支援、食料支援等あらゆる支援策を講じるとともに、必要に応じて他機関と連携し、課題を解決した。

また、判断能力が不十分な方の権利擁護支援としては、他機関と連携し、本人の状態や本人を取り巻く環境などの情報を把握したうえで、日常生活自立支援事業、または法定後見制度の利用を検討し、支援を進めることができた。

(ア) 相談実績

相談件数：50 件

(単位：件)

属性	令和5年度	令和4年度
困窮者	36	41
うち高齢者	(15)	(12)
うち障がい者	(8)	(7)
高齢者	10	4
障がい者	2	2
その他	2	1
計	50	48

(相談内容に重複あり)

(単位：件)

相談内容	令和5年度	令和4年度
自立生活に関すること	13	14
家計管理に関すること	13	11
貸付に関すること	16	30
借金・滞納に関すること	5	10
成年後見制度に関すること	5	0
日常生活自立支援事業の利用	11	5
消費生活に関すること	0	0
虐待・権利侵害に関すること	0	1
生活支援に関すること	6	1
地域・人間関係に関すること	5	5
仕事に関すること	13	11
ひきこもりに関すること	4	3
その他	8	0
計	99	91

2. 生活再生事業

(1) 生活再生相談

① 生活困窮者自立相談支援事業（市受託事業）

相談者の悩みに寄り添い、どのような支援が必要か一緒に考え、生活困窮状態から脱却するための計画を立て、必要に応じて病院や市役所に同行するなど支援した。また、高齢者や障がい者の専門分野の課題については、他機関と連携し支援した。その結果、的確な方向性を示すことができ、安定した生活に至ることができた。

また、昨年度から引き続き、ひきこもり家族支援（こもりカフェ）を行った。

その結果、参加された家族はここでしか共感してもらえない悩みを話せる喜び、共感してもらえる喜びがあり、レスパイト（休息）の場となっており、毎回の参加を楽しみにしてくれている。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和5年度	令和4年度
相談件数	54	48
実利用人数	10	4
プラン策定件数	16	14
のべ対応 (支援申込み前含む)	680	829

(単位：件)

対応内容	令和5年度	令和4年度
電話相談	273	276
訪問・同行支援	137	111
面談	147	332
所内会議	46	49
支援調整会議(プラン策定・評価)	39	46
その他関係機関との会議	30	3
関係機関との照会・協議	5	4
その他	3	8
計	680	829

(イ) 支援体制の構築

ア 周知啓発活動

- ・相談窓口の案内チラシ配布および設置

福祉保健課、福祉保健センター、税務課、市民サービス課、水道部、各コミュニティセンター、尾鷲総合病院、紀北信用金庫、百五銀行、三十三銀行、郵便局、伊勢農協、三重外湾漁協

イ 関係機関との会議

- ・尾鷲公共職業安定所との連絡会議
- ・尾鷲市管内におけるひきこもり支援会議

(主催：三重県こころの健康センター)

10/17 会議(場所：尾鷲市福祉保健センター)

出席者：尾鷲市福祉保健課自立支援係

紀北地域障がい者総合相談支援センター結

ウ 尾鷲市福祉保健課自立支援係との支援調整会議（開催回数：12回）

(ウ) ひきこもり家族支援 こもりカフェの開催

家族教室の開催11回（4月～3月）

参加者：3家族 延べ30人

他機関：尾鷲市福祉保健課自立支援係、健康づくり係

尾鷲保健所、紀北地域障がい者総合相談支援センター結

② 生活困窮者家計改善支援事業（市受託事業）

家計管理に問題がある方を対象に、収支状況の見える化と計画的な家計プランの作成を相談者とともにいった。レシートの保管や家計表のつけ方などははじめは難しそうにしていた利用者も支援者のサポートにより着実に家計管理を行うことができ、支援終了時には自分で家計管理ができるようになり、分析と判断ができるようになった。

また、借金の返済が難しい方には、自己破産の支援を行った。3名の支援を行ったが、3名とも負債の免責と今後の生活に向けた家計管理の習得で、家計改善を図ることができた。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和5年度	令和4年度
相談件数	34	51
実利用人数	11	6
プラン策定件数	14	10

(イ) 対象者が抱える課題(支援決定者のみ)

(単位：件)

	令和5年度	令和4年度
税金の滞納	2	3
医療費の滞納	0	2
公共料金の滞納	0	2
債務（銀行や消費者金融など）	6	8
家計管理の問題	9	9
低所得	13	8
計	30	32

③ アウトリーチ等強化による自立相談支援事業（市受託事業）

生活課題を抱え、相談する相手がいない孤立状態の方や、ひきこもり状態の方、長期無業者など、自宅を訪問し、病院や官公庁への手続きに同行し、本人に寄り添った支援を行った。

その結果、本人との信頼関係を構築することができ、すぐには解決に至らないが、一つずつ課題を解決していくことができた。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和5年度	令和4年度
相談件数	20	29
実利用人数	13	18
のべ対応件数	725	1025

(単位：件)

対応内容	令和5年度	令和4年度
電話相談	325	331
訪問	127	128
面談	172	367
同行支援	34	65
関係機関との協議	67	134
計	725	1025

④ 生活困窮者就労準備支援事業（市受託事業）

生活基礎能力、対人能力、社会適応能力等に課題を抱え、雇用による就業が著しく困難な生活困窮者に対し、一般就労を行う前段階の準備として、基礎能力を形成することを目的に支援を行った。

その結果、当事業を通じて本人の特性や症状を知ることができ、障がい者総合相談支援センター結の協力を得て、病院受診につなげることができた。

現在では、通院治療により状態の改善が見られ、今後の就労等について方向性を見出すことができた。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和5年度	令和4年度
相談件数	9	5
実利用人数	3	3
プラン策定件数	3	3
のべ対応	160	428

(イ) 支援により見られた変化

(単位：件)

見られた変化	令和5年度	令和4年度
就労開始	1	1
福祉サービスの利用	1	0
就職活動開始	1	2
健康状態の改善	2	3
障害者手帳取得	1	2
住まいの確保・安定	1	2
社会参加機会の増加	3	3
生活習慣の改善	1	2
対人関係・家族関係の改善	2	2
自立意欲の向上・改善	2	2
孤立の解消	3	3
精神の安定	3	3
計	21	25

(ウ) 就労体験の実施

受入先	令和5年度		令和4年度	
	延べ人数	延べ日数	延べ人数	延べ日数
NPO 法人おばら野（優・結）	1名	5日	2名	6日
NPO 法人笑福	0名	0日	1名	3日
共同ビルサービス株式会社	0名	0日	1名	3日
計	1名	5日	4名	12日

(エ) 作業訓練及び講習

ア 農作業訓練（通年）

内容：除草、土づくり、種まき、追肥、害虫対策、水やり、収穫

イ 掃除訓練（通年）

内容：ボランティア室のモップ掛け、掃除機掛け、テーブル拭き

(オ) 対応結果

(単位：件)

	令和5年度	令和4年度
一般就労	0	0
一般就労（障がい者枠）	0	1
福祉的就労（障がい者就労施設）	1	0
計	1	1

⑤ 被保護者就労支援事業（市受託事業）

生活保護受給者を対象に、就労に向けた相談を行い、事業所見学や就労体験を実施した。就労を目指すだけでなく、安定した生活を送るため、病院受診の同行を行った。

その結果、通院治療により状態が良くなり、今後の就労および生活に向けた方向性を見出すことができた。

(ア) 相談対応

(単位：件)

	令和5年度	令和4年度
相談件数	1	2
実利用人数	1	2
のべ対応	55	53

(イ) 対応結果

(単位：件)

	令和5年度	令和4年度
常勤就労	0	0
パート就労	0	0
福祉的就労	0	0
計	0	0

ア 関係機関との会議

- ・ 令和5年度稼働能力判定会議

開催日：毎月開催

出席：市福祉保健課・社協から5名が出席

- ・ 令和5年度被保護者就労支援打合せ会議

書面により実施

ハローワーク尾鷲、尾鷲市、尾鷲市社会福祉協議会

- ・ 令和5年度紀北地域協議会就労部会

7/7 第1回会議(場所：尾鷲市中央公民館)

3/21 第2回会議(場所：尾鷲市中央公民館)

(2) 生活資金貸付事業

① 生活福祉資金貸付事業(受託事業)

従来の生活福祉資金貸付事業を実施したほか、令和5年1月から新型コロナウイルス感染症の影響により、生活資金に悩む世帯を対象とした特例貸付(新型コロナ特例貸付)の償還が本格化したため、対象世帯に対して償還免除や償還猶予申請手続きを支援し、同時に相談援助を行うことで世帯の経済的自立に繋げた。

(ア) 令和5年度新規貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和5年度	令和4年度
福祉資金	福祉費(葬祭費)	1	0
	緊急小口資金	1	1
教育支援資金		0	1
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	0	3
	総合支援資金	0	2
計		2	7

(イ) 令和5年度完済件数

(単位：件)

資金種類		令和5年度	令和4年度
福祉資金	緊急小口資金	1	2
教育支援資金		0	1
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	1	0
計		2	3

(ウ) 令和5年度償還免除件数

(単位：件)

資金種類		令和5年度	令和4年度
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	3	15
	総合支援資金	3	9
計		6	24

(エ) 令和5年度末時点貸付件数

(単位：件)

資金種類		令和5年度	令和4年度
福祉資金	福祉費(葬祭費)	1	0
	福祉費(住宅資金)	1	1
	障がい者自動車 購入費	1	1
	技能習得費	1	1
	緊急小口資金	3	3
	教育支援資金	11	11
新型コロナ特例貸付	緊急小口資金	35	39
	総合支援資金	36	39
計		89	95

② 福祉金庫緊急貸付事業

緊急かつ一時的に生活資金が不足し、ライフラインの停止など困難な状況に陥った世帯に対して生活資金を貸し付けた。食料支援事業など他制度も活用して生活機能を維持しつつ、併せて相談援助を行い生活再建に繋げた。

(ア) 令和5年度新規貸付件数・完済件数・償還免除件数

(単位：件)

種類	令和5年度	令和4年度
新規貸付件数	3	8
完済件数	0	7
償還免除件数	1	0

(イ) 令和5年度末時点貸付件数

(単位：件)

償還の状況	令和5年度	令和4年度
年度末時点貸付件数	9	7
定期的に返済している世帯	0	0
不定期であるが返済をしている世帯	1	1
令和5年度全く返済実績のない世帯	7	6
償還期限未到来世帯	1	0

③ 借受人等関係者との関わり強化

日中就労しているなどの理由でなかなか連絡が取れない関係者が多かったが、連絡が取れた場合には、なるべく面談して世帯の課題を改めて確認した。そのうえで、世帯の自立につながるよう相談支援を行った。

(3) 緊急食料等支給事業

① 生活困窮世帯等に対し食料支援を通じ、事業の周知を行った。

- ・みえ福祉の「わ」創造事業・・・緊急時物品等支援事業1件、就労活動支援交通費10件、セカンドハーベスト名古屋からの食料支援14件
- ・本会独自事業及び生活協同組合コープみえ、伊勢農業協同組合からの食料寄付を活用した食料支援63件

② 食料寄付の受付

- ・生活協同組合コープみえより、協定に基づき良品返品の商品(精米・食品など)の無償提供を受けた。
- ・伊勢農業協同組合より、組合員や地域住民に協力を呼びかけ集まった未開封食料の食料寄付を受け付けた。
- ・福祉保健センター1F ロビーに常設型フードドライブ(2022年8月より)を設置し、社協職員や市民への食料品等の提供の呼びかけを行った。18件常設型フードドライブが少しずつ知られるようになり、食料支援の一部として活用することができた。



3. 権利擁護事業

(1) 日常生活自立支援事業[おわせ日常生活自立支援センター](受託事業)

① 利用者支援の実施

必要な情報の提供や助言を行い、その都度、利用者の意思を確認しながら支援を進めることができた。また、利用者が地域で安心して生活できるように、利用者中心の支援体制の構築に努めた。

(ア) 相談実績

(単位：件)

		認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	令和4年度
相談		275	277	470	277	1299	1312
契約	新規	2	0	0	4	6	6
	解約	0	0	0	3	3	4
	継続	7	6	6	5	24	21

② 新規・困難ケースへの迅速な対応

新規相談ケースについては、利用者や関係機関の理解を得ながら、可能な限り早期に調査を行った。特に、虐待が疑われるなど緊急性の高いケースについては優先的に対応した。

困難ケースについては、関係機関の協力を得ながらチームによる支援を心掛け、慎重かつ迅速に対応した。

③ 関係機関との連携

地域包括支援センターや障がい者総合相談支援センターを始めとした関係機関と連携し、役割分担しながら利用者中心の支援を行った。

④ 専門員・推進員・生活支援員の資質向上

スキルアップに必要な研修や会議に参加することで資質向上に努めた。

⑤ 契約締結審査会への出席（令和5年度2回出席）

成年後見制度利用までのつなぎ支援としての利用について、契約締結審査会に審査を依頼した。契約締結審査会では、専門員が委員に対して審査内容を説明し見解や助言を求めた。その結果に基づき適切に支援を行った。

⑥ 日常生活自立支援事業の啓発

多数に向けた事業説明の場は設けることができなかったが、関係機関と関わる中で、その都度丁寧な説明を心掛け、理解を深めてもらえるように努めた。今後、研修会や集会等の行事の開催に合わせて広く周知を行う予定である。

(2) 後見支援事業

① 尾鷲市成年後見支援センター事業(受託事業)

(ア) 広報業務

ア 成年後見制度利用促進講演会「落語で知ろう『成年後見制度』」の開催

日 時：令和6年3月9日(土) 13時30分から15時00分

場 所：尾鷲市立中央公民館 3階講堂

内 容：

第1部 落語講演「落語で知ろう成年後見制度『後見爺さん』」

講演者：落語家 桂ひな太郎氏

第2部 トークセッション「教えて成年後見制度」

登壇者：落語家 桂ひな太郎氏

権利擁護センターぱあとなあみえ 井谷礼氏

津家庭裁判所熊野支部 春川拓哉氏

おわせ生活サポートセンタークローバー 與谷和士

紀北地域障がい者総合相談支援センター結 東地正幸

尾鷲市地域包括支援センター 山本雄一

来場者：63名



イ 事業の周知

本会広報誌や SNS において、尾鷲市成年後見支援センターの設置や講演会・相談会の開催について記事を掲載した。また、尾鷲市役所、各コミュニティセンター、市内の金融機関、医療機関、介護事業所、福祉関係者及び関係団体等にチラシの配布及びポスターの掲示をした。

(イ) 相談業務

ア 「成年後見制度に関する相談会」の開催

日時：令和6年3月16日(土) 10時00分から12時00分

場所：尾鷲市福祉保健センター 4階多目的ホール

対応者：弁護士 小林大輝氏

司法書士 中瀬幸志氏

おわせ生活サポートセンタークローバー 與谷和士

紀北地域障がい者総合相談支援センター結 東地正幸、

赤崎麻由

尾鷲市地域包括支援センター 山本雄一

相談者：5名

イ 相談窓口の設置

・相談員の配置

おわせ生活サポートセンタークローバー、紀北地域障がい者総合相談支援センター結、尾鷲市地域包括支援センターに相談員計6名(兼務)を配置した。

・相談件数：19件

相談者に対して、成年後見制度の情報提供や助言を行った。なお、専門性が高い事案に関しては、尾鷲市成年後見制度利用促進協議会において事例検討し、適切と思われる申立人や成年後見人等、また、今後予測される問題について助言を受けた。

(ウ) 申立支援業務 申立支援件数：1件

親族の申立に対して、申立の流れの説明、書類の書き方や内容確認等の支援を行った。また、相談者が相談した司法書士と連携し申立を支援した。

(エ) 担い手育成業務

尾鷲市成年後見制度利用促進協議会において、当地域の現状や今後の見通し、市民後見人を始めとする担い手の育成や確保について、意見交換・情報収集した。

② 法人による後見人等受任事業

令和5年度当初は受任件数3件であったが、令和5年度中に被後見人2名が死亡したため、令和5年度末現在受任件数は1件となっている。

- (ア) 審判に基づく被後見人等の支援（身上監護・財産管理）
- (イ) 法人後見運営委員会の開催（令和5年度1回開催）
- (ウ) 内部監査の実施（年1回）
- (エ) 裁判所への定期的な事務報告

(3) 死後事務受任事業の調査・検討

死後事務受任事業については、三重県内社協において受任事業は実施されておらず、全国的には名古屋市社会福祉協議会のほか、特に都市部で実施している社協が散見される。実施されている団体における利用者要件としては、直系卑属がいないこと、遺言書を作成すること、遺言執行者を定めること、事前に預託金を納金することなどがある。名古屋市社協においては、人口229万人で、死後事務受任事業の契約数は令和4年度末時点で67人（人口比率0.0029%）という状況である。

当地域では火葬埋葬や家財の処分等を行う親族がいないケースが少数であること、現在当課が支援している利用者では希望する内容相当の資金を預託することが困難、または預託に同意しないケースが多いと思われることから、契約に至る件数はごく僅かだと考えられる。また、死後事務受任事業と同様のサービスを当地域の司法書士等専門家が行っていることから、希望される場合は、必要に応じて専門家へつなぐなどの支援を行っていく。

Ⅲ 高齢者支援課

地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

(1) 総合相談支援

① 総合相談窓口の設置

新規相談件数（集計は初回受付分のみ）

（単位：件）

相談内容	件数
介護・日常生活に関する相談	550
介護サービスの利用に関する相談	217
医療サービスの利用に関する相談	15
生活費に関する相談	9
各種サービスの苦情に関する相談	5
権利擁護に関する相談	10
その他	22
合計	828

（前年度新規相談件数：776件）

② 地域包括支援センターの周知

「社協だより（おわせ社協）」への掲載

「地域包括支援センターだより」の発行（年1回）

「社協ホームページ」の更新

③ 輪内ランチ（輪内地区相談窓口）の開設（週1回）

(2) 権利擁護支援

① 高齢者虐待防止

相談受理件数 1件（前年度0件）

② 権利擁護制度の活用支援

（ア）日常生活自立支援事業の利用援助

相談件数 9件（前年度10件）

（イ）成年後見制度の利用援助

相談件数 8件（前年度8件）

※ アセスメントの結果でニーズが判明することが多いため、上記新規相談件数（初回受付分）とは一致しない。

③ 特殊詐欺等被害防止研修会

開催日：令和5年10月16日

会場：尾鷲市福祉保健センター3階講座室

参加者：14名

講師：尾鷲警察署生活安全課生活安全係 係長 田代弘志 氏

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

① ケアマネジャー連絡会議の開催

ケアマネジャー同士の交流及び学びの機会を目的とした連絡会議を開催した。

(ア) 研修会

- ◆ 開催日：令和5年6月22日（木）
- ◆ 会場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール
- ◆ 参加者：33人
- ◆ 内容：訪問看護・通所リハビリを活用した自立支援
- ◆ 講師：各サービス事業所代表者

(イ) 事例検討会

- ◆ 開催日：令和5年11月30日（木）
- ◆ 会場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール
- ◆ 参加者：28人
- ◆ 助言者：福祉アドバイザー 西 勉 氏



(研修会)



(事例検討会)

② 包括的なケアマネジメント支援

ケアマネジャーのみでは対応困難な支援ケースについて相談に乗り、ケース全体のマネジメント支援を行った。

- ◆ 相談対応件数 100件（前年度92件）

③ 地域ケア会議の開催

支援困難ケースについて行政職員を交えた多職種による地域ケア会議を開催し、問題の解決方針の模索と地域課題の抽出・検討を行った。

◆ 開催件数 3件（前年度4件）

(4) 介護予防ケアマネジメント

要支援認定者（介護予防・日常生活支援総合事業対象者を含む）に対して介護予防ケアマネジメントを実施し、要介護化の防止支援を行った。

◆ 月別の利用者数（ケアプラン作成数）（単位：件）

	自機関作成分	委託分	合計
4月	189	52	241
5月	185	54	239
6月	186	61	247
7月	194	59	253
8月	186	61	247
9月	195	62	257
10月	196	69	265
11月	208	65	273
12月	215	70	285
1月	208	69	277
2月	208	69	277
3月	206	78	284
平均	198	64	262
合計	2,376	769	3,145

（前年度合計件数 2,605件）

(5) 認知症総合支援

① 認知症初期集中支援のしくみづくり

認知症専門医を中心として医療・福祉の連携チームを編成し、医療や福祉サービスにつながっていないケースに対して集中的支援を行うしくみづくりを行った。

◆ 認知症に関する相談 61件（前年度 73件）

◆ 認知症初期集中支援チームによる検討 15件（前年度 9件）

◆ 認知症初期集中支援チーム会議 7回（前年度 0回）

◆ 認知症初期集中支援検討委員会 1回（前年度 1回）

② 認知症カフェ「こもればカフェ」

認知症に関する学びや相談、つながりづくりを目的とした認知症カフェを開催した。

(単位：人)

回	開催日	催し	参加者
1	5月25日	ミニ講座「脳の働き」	12
2	7月6日	ミニ講座「脳血管疾患」	20
3	9月16日	認知症サポーター養成講座	72
4	11月2日	ミニ講座「薬の工夫」	29
5	1月25日	ミニ講座「認知症の病院受診」	29
6	3月7日	写真で振り返るこもればカフェ	26
合 計			188

(前年度：12回のべ101人)



③ 認知症サポーター養成講座

一般住民や企業・学校などを対象として認知症の周知・啓発を目的とした認知症サポーター養成講座を開催した。

(単位：人)

回	開催日	対象者	参加者
1	5月23日	日本生命津支社尾鷲営業部	20
2	6月8日	尾鷲高校「生活と福祉」選択生	12
3	9月16日	一般（アルツハイマーデー来場者）	19
4	10月24日	紀北信用金庫	9
合 計			60

(前年度：9回のべ233人)

④ 認知症サポーターステップアップ講座

開催日：令和5年12月21日（木）13：30～15：00

会 場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール

参加者：14名

内 容：認知症の人との接し方を深めよう

講 師：三重県オレンジチューター 工藤 元貴 氏

⑤ 認知症ボランティア（こもれびボランティア）の活動支援

（ア）こもれびボランティア登録数

◆ 一般 7人

◆ 専門職 7人（看護師 5人、薬剤師 2人）

（イ）こもれびボランティア活動内容

◆ こもれびカフェの運営

◆ 認知症啓発イベントの運営

⑥ 第2回おわせアルツハイマーデーこもれび

開催日：令和5年9月16日(土)13:30~16:30

会 場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール

来場者：72人

内 容：認知症サポーター養成講座、認知症カフェ、認知症の方の作品展



（認知症サポーターステップアップ講座）



（おわせアルツハイマーデーこもれび）

(6) 家族介護者支援事業

① 介護者交流会

(単位：人)

回	開催日	内 容	参加者
1	6月9日	おしゃべり喫茶	6
2	10月24日	勉強会「心のケア」 講師：グリーフ専門士 氷上彩香 氏	7
3	12月13日	料理教室 講師：栄養士 小川早知子 氏	5
4	3月27日	おしゃべり喫茶	7
合 計			25

(前年度：3回のべ14人)

② 家族介護教室

開催日：令和5年8月29日（火）10：00～12：00

会 場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール

参加者：28名

内 容：介護場面で使えるコツ

講 師：ユマニテク医療福祉大学校 伊藤 幾代 氏



（心のケアに関する勉強会）



（料理教室）

IV 障がい支援課

紀北地域障がい者総合相談支援センター結

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1) 総合相談支援

住みなれた地域で安心した暮らしを継続し、障がいの有無にかかわらず、互いに人格や個性を尊重しあいながら共生する社会の実現という総合支援法の理念に基づいた相談支援を行った。また、地域での生活を継続するために、障害福祉サービスや地域支援事業などをライフステージに応じて利用できるよう支援を行った。

令和5年度の相談実人数は236人であった。支援内容は福祉サービスの利用に関する相談支援が多く、自分の希望する暮らしや意向を実現するために、どのようなサービスがあるのか知りたいという相談が多かった。

本人・家族の高齢化が進む中で、これからの生活について共に考え、これまで利用していなかったサービスについて知り、利用を検討する機会となった。

① 暮らしの相談

ここ数年で圏域内に障がい者グループホーム（障害者共同生活援助サービス）が開設された事で、住み慣れた地域を離れることなく生活を送れ、地元の日中活動にそのまま継続して参加する事が出来るようになった。将来を見据えてグループホームを定期的に体験利用する方もおり、貴重な地域資源となっている。一方で、本人・家族ともに高齢化が進んでいる中で緊急時の相談も増えてきているが、グループホームが定員に達し、必要な時に利用できない状況も出て来ている。緊急時の相談に伴う受入れについては、地域のグループホームで対応してもらうことが多く、今後も緊急時の対応受入れや、施設入所の動向を踏まえた居住環境の検討が必要である。

② 家計経済の相談

金銭管理が上手くできず生活に支障が生じる相談ケースには、生活困窮者相談支援事業や日常生活自立支援事業と連携しながら支援を行った。独居の方や家族の協力が得られない方も増加しており、今後の権利擁護支援の体制も課題となる。

③ 就労相談

地域で生活されている方からの就労を希望する相談は増加している。すぐに企業への一般就労に結びつかない方への支援では、福祉サービスの就労支援事業所を紹

介・体験に繋いだ。また、就労されている方で生活面での課題を抱えているケースについては、基幹型支援センターや就業・生活支援センター、市町社協の関係機関等が協力して課題解決への支援を継続して行った。

④ 社会参加・余暇活動相談

感染症の影響で自粛していた余暇活動が再開された事により、休日の過ごし方やイベントへの参加についての相談が増え、それに伴うサービス利用についての相談が増加となった。

◇障がい別 年間相談者実数（児・者） (単位：人)

区分	実人員	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳 機能	その他
尾鷲市	123	19	2	59	38	5	0	2
紀北町	113	10	1	67	32	1	0	4
計	236	29	3	126	70	6	0	6

◇支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話 相談	電子 メール	関係 機関	個別支 援会議	その 他	計
尾鷲市	1,314	513	250	1,286	3	461	79	67	3,973
紀北町	1,169	339	174	1,114	11	281	68	49	3,205
計	2,483	852	424	2,400	14	742	147	116	7,178

◇支援内容（延べ件数） (単位：件)

内容	尾鷲市	紀北町	計
福祉サービスの利用に関する支援	2,078	1,783	3,861
障がいや症状の理解に関する支援	276	233	509
健康・医療に関する支援	305	280	585
不安の解消・情緒安定に関する支援	197	197	394
保育・教育に関する支援	43	33	76
家族関係・人間関係に関する支援	222	167	389
家計・経済に関する支援	168	84	252
生活技術に関する支援	110	64	174
就労に関する支援	115	68	183
社会参加・余暇活動に関する支援	298	225	523

権利擁護に関する支援	8	5	13
その他	153	66	219
計	3,973	3,205	7,178

(2) 権利擁護のための必要な援助

市町委託の基幹型支援センターのすべての職員が虐待防止に関する意識を持ち、虐待防止の窓口として、障がい者の個性や人格を尊重し、権利を擁護できるよう活動を行った。令和5年に事業開始をした尾鷲市成年後見制度中核機関の活動としては、制度の啓発活動である「落語で知ろう成年後見制度」と題した講演会や「成年後見制度に関する相談会」を開催するなど、制度利用に関する広報機能・相談機能等の活動を行った。今後も、行政や医療機関、福祉機関と連携を図りながら、必要時に本人を支える相談援助を行って行く。また、誰もが住みやすいまちづくりや、障がい者への理解を深めてもらう為に、市内小・中学生を対象に福祉授業を実施した。



(成年後見制度落語会)



(小学校 福祉授業)



(中学校 福祉授業)

(3) 地域における相談支援体制強化と人材育成

相談支援専門員の研修受講者の地域実習・演習の受け入れを行い、地域の支援者の育成に努めた。新規のサービス利用の相談や相談支援専門員から相談を受けたケースに対しては、基幹型支援センターの職員が訪問や面談に同行し、相談支援専門員に対しての支援を行った。一方で、相談支援専門員が不足していることから、新規ケースを受けるまでに時間を頂くケースが出てきており、新たな相談支援専門員の育成が今後の地域課題と言える。現任の相談支援専門員だけでなく、これから相談支援専門員を目指す新人職員に対し、訪問や面談に同席してもらい、実際のケース対応を学ぶなど、今後の相談支援専門員としての実務を見据えた取り組みを行っている。

(4) 紀北地域協議会の運営支援

地域生活支援拠点部会、こころ部会、就労部会の3部会で構成し、それぞれ年間テーマを決め活動を行った。また、今年度も避難訓練に取り組み、防災意識向上への取り組みを行った。

令和5年度 紀北地域協議会部会活動

部会名	取組内容
地域生活支援拠点	<p>テーマ：「紀北地域における地域生活支援拠点の整備に向けて」</p> <p>地域で長く暮らしていくにはという視点で3件の事例をもとにケースの対応経過を共有し、今後の生活の見立てを行った。また、拠点整備に向けて地域の課題や社会資源についても意見を出し合い情報共有を図った。</p>
こころ部会	<p>テーマ：「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて」</p> <p>精神障がいを持っている方が入院をせずとも地域で暮らしていくにはという視点で2件の事例をもとにケースの対応経過やこれからの課題について意見を出し合った。その他、施設入所や精神科病院に入院中の方でもヘルパーサービスを利用し在宅での生活を体験できる在宅援護事業についても情報共有した。</p>
就労部会	<p>テーマ：「福祉的就労の場の確保、就労サポート・定着支援、多様な就労形態の創出について」</p> <p>○コーディネーターを講師に招き、農福・林福・水福連携についての三重県内での事例を紹介して頂き、圏域内で新たな可能性が生まれぬか検討した。その結果、林福連携では昨年度に引き続きスマッジの作成、水福連携では新たな事業所がカキ養殖のロープの釘抜きを行うなど、コーディネーターが中心となって調整を行い、B型事業所の作業の確保・工賃アップに繋がった。委託作業としては、企業から新たな委託先の紹介を受け、圏域の事業所に情報提供を行うことで、作業の見学や確認など事業所間での連携に繋がった。</p> <p>○三重県の事業である障がい者委託訓練事業（実践能力習得訓練コース）の説明を行い、この事業の県内での事例紹介や『委託訓練を活用し雇用へ』への内容で圏域内での事例報告を行った。</p>

避難訓練	第1回：令和5年9月16日（土） 尾鷲市開催 参加者12名 防災関連ゲーム、尾鷲市福祉保健センターから尾鷲税務署への避難経路や危険箇所の確認。
	第2回：令和6年3月28日（木） 尾鷲市開催 参加者2名 防災に関するDVD視聴、ハザードマップを用いて津波・土砂災害の危険箇所の確認や、自宅・外出先からの避難場所の確認を行った。

（5）ピアサポーター活動支援

地域での生活をより豊かなものとするために、社会との接点や色々な体験の機会を持てるよう「共通の経験と関心をもつ仲間同士の相互支援」を基本とするピア活動支援に取り組んだ。尾鷲市林町会館と紀北町海山公民館で、月2回行う「すずらんサロン（日中の居場所作り）」の活動を行った。昨年度まで行っていた創作活動や外出活動に加え、感染対策を行いながら調理（お菓子作り）を再開した。延べ人数で尾鷲市44人、紀北町20人、合計で64人の参加があった。コロナ感染症が5類となり、これまで行っていたような活動を再開したいという希望が聞かれ、どのようにすれば調理を再開できるのか、ともに考える姿がみられた。

また、尾鷲市身体障がい者互助会の活動については、総会、役員会ともに年1回開催した。昨年まで控えていた外出活動も再開し、多気町にあるヴィソンにて食事や散策を楽しみ会員同士の交流を深めることができた。その他、昨年と同様に会員宅を訪問し健康を確認すると共に、感染予防対策としてマスク等の配布を行った。



（すずらんサロン 紀北町）



（すずらんサロン 尾鷲市）



（身体障がい者互助会）

2. 障害者就業・生活支援センター事業及び障がい者就業・生活支援事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業と三重県の障がい者就業・生活支援事業では、令和2年度から続いた新型コロナウイルス感染症も令和5年5月には5類となり、コロナ禍前の支援に戻りつつあり、相談・支援件数は前年度と比較して1割

強増加した。しかし、冬季になるにつれ介護事業所・医療機関などではインフルエンザの感染症が拡がりも見られ、訪問を制限するケースも見受けられた。

関係機関等の会議・研修については、集合開催が基本となり、議題以外で参加者との交流も活発になり、関係機関同士のネットワーク作りの再構築にもなっている。

令和5年度から始まった三重県教育委員会主催の高校生就労支援ネットワーク会議に参加することで、圏域内の高校はもちろんのこと、圏域外ではあるが近隣の教育機関・支援機関とも情報共有を図り、その後の会議や個別訪問を通じて連携を深める良い機会となった。実際、地元の高校とは新3年生の支援に入る予定となっている。

① 就労登録者数 (単位：人)

登録者数	身体	知的	精神	その他 (難病)	計
新規	1	6	8	0	15
継続	35	80	68	9	198
合計	36	86	76	9	207

② 就労実績 (単位：人)

障がい種別 1週間の 勤務時間数	身体	知的	精神	その他	計
一般(30時間以上)	1	1	2	0	4
20時間以上 30時間未満	0	1	4	0	5
20時間未満	0	0	1	0	1
計	1	2	7	0	10

③ 市町別一般就労実績 (単位：人)

区分	(内訳)				計	
	身体	知的	精神	その他		
内 訳	尾鷲市	1	1	5	0	7
	紀北町	0	1	2	0	3
圏域合計		1	2	7	0	10

④ 相談支援件数（内容別） （単位：件）

内 容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	51	249	284	1	585
職場定着の為の相談支援	36	240	172	0	448
日常生活に関する相談支援	104	314	111	0	529
就業と生活に関する相談支援	1	19	18	0	38
計	192	822	585	1	1,600

⑤ 相談支援件数（手段別） （単位：件）

内 容	身体	知的	精神	その他	計
来所	33	164	135	0	332
オンライン・電話・電子メール等	83	381	277	0	741
職場訪問 （定着支援、職場実習支援を含む）	16	151	86	0	253
家庭・利用施設への訪問	22	24	21	1	68
その他（ハローワークへの同行訪問、医療機関への同行、年金事務所への同行等）	38	102	66	0	206
計	192	822	585	1	1,600

◇在職者交流会・ピアサポート活動 研修会 （単位：人）

開催日	内 容	参加人数
令和5年7月1日	在職者交流会 「ヨガで心と体を元気に」	9
令和5年10月28日	ピアサポート活動 「ヨガで心と体を元気に」	8
令和6年1月20日	在職者交流会 「特殊詐欺の被害にあわないために ～あやしいと？気づける人になろう～」	10



（在職者交流会ヨガ）



（ピアサポート活動ヨガ）



（在職者交流会特殊詐欺）

◇地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

(単位：人)

開催日	内容	参加人数
令和5年10月31日	意見交換会	5
令和5年11月6日	就労連絡会	24
令和6年1月17日	研修会 『こころしっとこセミナー』	11
令和6年2月17日	勉強会 『障がい者就業・生活支援センターの役割及び福祉制度の説明会』	8

3. 障がい者社会参加促進事業及び生活支援事業

(1) 生活訓練事業

視覚障がい者の方に対して、歩行訓練や福祉機器・点字の指導を行う。

開催 12 回 視覚障がい者 2 人 延べ参加人数 22 人

(2) フラワーアレンジメント教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。講師 池田比早子氏

開催 12 回 延べ参加人数 144 人 (尾鷲市 85 人 紀北町 59 人)



(フラワーアレンジメント教室)



(生活訓練事業 視覚障がい者歩行訓練)

(3) 点字・声の広報発行事業

視覚障がい者の方に対して、音訳ボランティアによる広報おわせ録音・発送。

実施 12 回 視覚障がい者 3 人 延べ配布人数 36 人

(4) 尾鷲市ふれあいスポレク祭

令和5年11月5日(日)開催

障がい者 58 人 ボランティア 8 団体 50 人

福祉協力校 3 校 18 人 その他 75 人 合計 201 人



(尾鷲市ふれあいスポレク祭)

(5) 音楽教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。講師 福田朝子氏

開催 12 回 延べ参加人数 43 人 (尾鷲市 20 人 紀北町 23 人)

(6) その他

紀北町ふれあいスポーツ大会参加。くろしお学園おわせ分校学習発表会・運動会、紀北作業所夕涼み会は、形式変更や開催中止等で参加なし。

4. 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業・指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成・モニタリングを行った。意思決定支援の視点を持ち、ご本人の思いを引き出し、サービス利用だけでなく、これからの生活についても一緒に考えながら支援を行う。面会制限がなくなったため、訪問し、直接お会いして支援できるようになった。事業所見学や体験も再開されており、スムーズにサービス利用につなげられるようになってきている。相談支援専門員の不足から、計画作成の依頼をすぐに受けることができないケースが出て来ているため、相談支援専門員の確保が今後の課題である。

① 特定相談支援 障害児相談支援 (単位：件)

	利用計画	継続支援
尾鷲市	95	218
紀北町	85	176
圏域外	6	23
計	186	417

② 支援方法別 相談延べ件数 (単位：件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話等 相談	その他	計
尾鷲市	419	50	24	325	105	923
紀北町	362	11	12	285	75	745
計	781	61	36	610	180	1,668

5. 尾鷲市成年後見支援センター事業

認知症、知的障がいその他の精神上的の障がいがあることにより、財産の管理又は日常生活等に支障がある方に対して、成年後見制度の利用促進を図るとともに、必要な支援の提供及び円滑な運用が図ることが出来るよう、尾鷲市から業務委託を受け、市と共に中核機関の役割（①広報機能②相談機能③利用促進機能④後見人支援機能等）を担った。広報機能としては、中核機関の設置について、社協だより、広報おわせに記事を掲載し、津家庭裁判所尾鷲出張所にチラシを設置。市民の方向けに「落語で知ろう成年後見制度」と題した講演会を開催し、家族等63人が参加された。

また後半では、福祉関係者が事例紹介やどのような場合に後見人は必要か等のトークセッションを実施。相談機能・後見人支援機能としては、弁護士・司法書士・社会福祉士が参加しての成年後見制度相談会を開催し、全体で5ケースの相談があった。また、日々のケース支援について、法律の専門家に相談しアドバイスをもらう事も出来た。年間通じての相談内容としては、制度の説明や、親亡き後の不安、施設入所した際の契約、財産管理等の相談があり周知と啓発となった。また、施設への移行を考えているケースで関係機関で協議を重ねて申立て支援に繋がった。

6. 各種参加会議等

- 三重県基幹型相談支援センター連絡会議
- 東紀州くろしお学園おわせ分校移行支援会議
- 三重県南部医療的ケア地域支援連絡会議（みえる輪ネット）
- 三重県相談支援体制会議
- 尾鷲市成年後見制度利用促進協議会
- 尾鷲市要保護児童対策協議会実務者会議
- 紀北地域精神担当者情報共有会議
- 尾鷲地域精神保健福祉危機対応ネットワーク連絡会

紀北町障がい者福祉団体連合会

知的障がい者入所調整会議

ひきこもり当事者家族カフェ（こもりカフェ）

三重労働局障害者就業・生活支援センター連絡会議

三重障害者職業センター障害者雇用支援連絡協議会

三重県障がい者就業・生活支援事業連絡会議

三重県教育委員会高校生就労支援ネットワーク会議

三重県障害者就業・生活支援センター連絡協議会準備会

三重県立聾学校地域連携会議

V 居宅介護支援課

居宅介護支援事業所

介護保険の理念に基づき、要支援、要介護状態にある利用者の意思を尊重し、住み慣れたご自宅などでできるだけ自立したその人らしい生活を営むことができるよう医療・福祉の関係機関と連携し、総合的に支援を行った。

1. 職員体制

主任介護支援専門員 4 名 介護支援専門員 1 名

2. 業務内容

1. 利用者、家族の在宅生活、在宅介護の支援

利用者、家族の心身の状況や、おかれている環境に応じてニーズを把握し、自立した日常生活を送ることができるよう、最善のケアプランの提案に努めた。

2. 居宅サービス計画の作成

在宅生活について、利用者及びご家族の意向を尊重し、望む生活に近づけるようケアプランを提案し作成した。医療との連携について、退院時には医師、病院関係者とのカンファレンスに参加し、円滑に在宅生活に復帰できるように支援した。

また、利用者の立場に立ち、提供されるサービスが特定の種類やサービス事業所に偏ることのないよう公平中立の立場を保ち支援を行った。

(1) 新規利用者の確保

(単位：人)

	令和 5 年度	令和 4 年度
居宅新規	52	32
居宅終了	45	47
※内訳 (死亡)	12	21
(入所)	21	21
(移動)	1	5
(改善)	3	0
(支援に移行)	8	0
予防給付 新規	8	1

新規利用者の確保は、要介護者20名の増加となる。終了については、死亡や介護度の重度の方の施設入所など、在宅での介護力の不足が原因の一つと推測される。少子高齢化、人口減少の影響もあり、全体的には居宅介護支援の件数は減少傾向となっている。

【利用者増減の状況表】

(単位:人・%)

構成 (介護度別)	5年度・実績		4年度・実績		備考
	人数	割合	人数	割合	
要支援・総合	101	5.9 %	75	4.0 %	増加傾向
要介護1・2	1301	74.4 %	1340	72.8 %	増加傾向
要介護3～5	345	19.7 %	428	23.2 %	減少傾向
計	1747	100.0 %	1843	100.0 %	

すでに計画を作成しているものの、不定期の利用や、入院や入所により中断、医療と連携調整後に繋がらなければ実績とならないケースも1割程度あり、制度上の課題かと思われる。

(2) 月別請求額

◇居宅介護支援費

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	134	133	135	136	142	137
収入額	2,095,600	2,095,710	2,103,550	2,112,380	2,215,860	2,123,710

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
132	142	135	139	136	161	1,662
2,056,500	2,208,580	2,109,490	2,200,790	2,149,920	2,368,100	25,840,190

(前年度) 利用者人数 1,775人 収入額 27,660千円

◇介護予防支援費

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	2	2	2	4	4	4
収入額	8,760	8,760	8,760	23,020	23,020	17,520

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	5	6	6	7	9	55
17,520	27,400	31,780	26,280	36,160	50,420	279,400

(前年度) 利用者人数 36人 収入額 163千円

◇介護予防ケアマネジメント費

(単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	3	4	4	4	4	4
収入額	13,140	23,020	17,520	17,520	17,520	17,520

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	4	4	4	4	4	47
17,520	17,520	17,520	17,520	17,520	17,520	211,360

(前年度) 利用者人数 40人 収入額 175千円

3. サービス提供機関との連携

各サービス事業所への訪問や、電話や書面による連携を図り、利用者の情報共有に努めた。また、病院と地域の連携を目指した研修に参加し、グループワークで多職種の参加者と交流を深めた。

4. 介護支援専門員実務研修実習生受け入れ事業

令和5年度ケアマネ試験合格者を受け入れた。(1件)

5. 介護保険要介護認定調査

市外、県外保険者より委託を受け、認定調査の資格を持った職員が認定調査を行った。(2件)

6. ケアプラン事業への参加(紀北広域連合主催)

コロナ禍により中止されていたケアプラン点検事業が、令和5年度末より再開され参加した。(1回)

7. 相談支援対応

ご家族、地域包括支援センター、市外病院からの相談を受け付け必要な支援に繋げた。(13件)

8. ケアマネジメントの質の向上を図る**1. 居宅事務所内でのミーティングを実施**

サービス提供にあたっての留意事項、困難事例ケース検討会、保健医療及び福祉に関する諸制度、地域における事業者や活用できる社会資源の共有など、週1回程度行った。

2. 居宅介護支援連絡会・各種研修への参加

介護支援専門員としての意識向上、援助技術のスキルアップを図った。

VI 訪問介護事業課

訪問介護事業所

「ずっとうちで暮らしたいを応援」を合言葉にホームヘルパーが自宅を訪問し、日常生活を維持するための支援を行った。

1. 訪問介護・総合事業訪問型サービス(介護保険)

介護等が必要な方を対象に、ホームヘルパーが自宅を訪問し、身体介護や生活援助のサービスを提供した。要支援の利用者は増加しているが、要介護の利用者の人数及びサービスの利用回数が減少した。サービスの内容では生活援助（掃除や洗濯、買い物）の占める割合が高くなってきており、介護報酬の高い身体介護が減少した。また、通院介助も減少している。

サービス内容

- 身体介護：食事介助、通院介助、入浴介助、排泄介助、体位変換
その他の身体介護
- 生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- 身体介護と生活援助の組み合わせ
- 通院等のための乗車または降車の介助

◇訪問介護月別実績 (単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	72	65	73	69	75	70
収入額	2,538,770	2,619,220	2,702,920	2,602,420	2,468,690	2,302,210

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
65	68	67	61	66	66	817
2,261,400	2,411,250	2,578,300	2,348,830	2,259,381	2,549,850	29,643,241

(前年度) 利用者人数 919人 収入額 33,768千円

◇総合事業訪問型サービス月別実績 (単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	31	29	31	31	31	34
収入額	379,500	374,960	408,290	394,700	386,040	406,200

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
32	31	32	31	31	28	372
376,570	379,070	375,260	380,870	354,210	350,020	4,565,690

(前年度) 利用者人数 351人 収入額 4,113千円

2. 障害者総合支援事業

障害者総合支援法に基づき、居宅介護、重度訪問介護、移動支援の各障害福祉サービスを提供した。利用者が介護保険サービスを利用する65歳となり、障害福祉サービスが終了となったことなどから減収となった。

◇月別単位数(実績月) (単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	32	32	32	31	33	32
収入額	1,366,610	1,540,440	1,449,031	1,282,320	1,285,280	1,323,729

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
29	32	32	30	28	28	371
1,341,560	1,366,040	1,298,540	1,184,470	1,112,680	1,060,900	15,611,600

(前年度) 利用者人数 386人 収入額 18,324千円

3. 生活支援サービス「あんしん」(保険外サービス)と一般乗用旅客自動車運送事業

生活支援サービス「あんしん」を介護保険外事業の一環として行った。また、ケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を、一般乗用旅客自動車運送事業として実施した。

◇あんしん月別実績 (単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	11	9	15	10	10	11
収入額	26,500	28,900	56,100	44,600	35,100	43,300

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	12	9	6	8	12	121
34,400	31,800	24,000	16,000	17,800	25,600	384,100

(前年度) 利用者人数 158人 収入額 484千円

◇運行利用料月別実績 (単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	58	55	61	54	62	63
収入額	107,250	116,150	123,050	119,950	134,750	126,600

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
58	57	61	52	59	60	700
120,960	141,350	142,850	120,250	123,100	142,990	1,519,250

(前年度) 利用者人数 799人 収入額 1,937千円

要介護の利用者の減少により、通院等が減少したことで収入が減収となった。

4. 令和5年度の重点的な取り組み

(1) 職員人材育成

①運行管理者資格の取得 1名

一般乗用旅客運送事業の事業者には配置が義務付けられている、運行管理者資格を取得し、輸送の安全管理に努めた。

②福祉有償運送運転者及びセダン等運転講習の受講 1名

利用者の通院等の運転業務に従事することが出来るように、ヘルパーが福祉有償運送の運転手を兼務出来るように受講した。

③介護職員に必要とされる知識、介護技術研修

全体研修および、各チーム別に介護従事者として必要な研修を行った。



(通院介助の様子)

(2) サービス提供責任者（チーフ）会議及び各チーム会議

サービス提供責任者会議では、各チームで抱えている個別困難ケースについて、管理者とサービス提供責任者が課題を検討し、情報共有と課題解決を行った。また共通する課題に対して方針決定を行い事業所運営に活かした。

各チーム会議では、各利用者の情報共有を行うとともに、介護職員に必要な研修を実施した。

Ⅶ 訪問入浴事業課

訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴（介護保険）

紀北地域唯一の訪問入浴事業所として、看護師、介護職員、運転手がチームとなり、利用者の身体状況に応じた安全で快適な入浴サービスを提供した。

継続的に新規利用の申し込みがあるが、入院やショートステイ利用などで短期間での利用や一人あたりの利用回数が少なかったため、昨年度より減収した。

（１）サービス内容

- ① 看護師による健康チェック
- ② 衣服の着脱介助
- ③ 浴槽への安全な移動介助
- ④ 入浴介助
- ⑤ 在宅介護相談



（２）事業効果

- ① 重度の介護状態のため、訪問介護（ヘルパー）では対応出来ない方への入浴サービスを実施したことで、利用者本人が希望する在宅生活を継続することが出来た。
- ② 高台に住居があり、身体的負担からデイサービスの利用が困難な方に自宅での安全な入浴サービスを提供することができた。

◇訪問入浴介護 月別実績

（単位：人・円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	12	12	9	11	11	14
収入額	719,350	746,650	568,200	639,120	665,180	616,460

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15	13	14	15	16	15	157
742,870	711,220	681,210	726,100	805,560	737,800	8,359,720

（前年度） 利用者人数 157人 収入額 11,116千円

Ⅷ 尾鷲通所介護事業課

尾鷲社協デイサービスセンターいきいき

1. 地域密着型通所介護・総合事業

利用者が可能な限り、住み慣れた自宅でその人らしい自立生活を営むことが出来るよう利用者、家族の意向を尊重しながら楽しく通所することで、心身機能の維持・運動機能の向上を目的に提供した。利用回数の多い要介護利用者が施設入所等で利用終了になった後も、新規利用が増えなかったことで減収となった。

(1) サービス内容

- ① 送迎サービス・バイタルチェック
 - ② 脳トレ（映像を使用したタッチ問題や虫食い問題）、懐かしい映像を使った回想法
 - ③ 呼吸体操・集団体操・口腔体操・レクリエーション
（呼吸体操・ストレッチ・タオル体操・ボール運動・セラバンド運動・有酸素運動・重心移動運動・脳トレ交えた手遊び等）
 - ④ 身体の介助・支援（移動介助・見守りなど）
 - ⑤ 日常生活の相談・助言
 - ⑥ 入浴サービス
 - ⑦ 足浴サービス
 - ⑧ 個別運動器機能向上サービス
（作業療法士による運動メニュー作成）
- ※⑥ ⑦ ⑧に関しては選択的サービス



(避難訓練の様子)

◇地域密着型通所介護 月別実績 (単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	17	18	17	17	19	18
収入額	484,160	575,690	566,230	543,130	606,560	556,574
						18
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
15	16	15	17	15	18	202
498,226	480,890	389,940	432,800	427,820	469,975	6,031,995

(前年度) 利用者人数 239人 収入額 7,140千円

◇総合事業 月別実績 (単位：人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	9	8	8	8	9	9
収入額	240,570	226,930	220,270	216,940	245,350	249,370

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7	7	8	8	8	6	95
184,510	152,400	186,020	194,820	168,530	109,980	2,395,690

(前年度) 利用者人数 93人 収入額 2,442千円

2. 一般介護予防事業（受託事業）

(1) 一般介護予防教室

尾鷲市から委託を受け、市内在住の65才以上の方を対象とした6カ月単位の介護予防教室を開催した。令和4年度にコロナ禍のため開催が3ヶ月間遅れ、年度を跨いでの開催となっていた。年度内での事業完了に調整するため1～3月の教室を停止した。

(単位：回・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	8	8	8	8	8	8
収入額	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9	8	8	0	0	0	73
225,000	200,000	200,000	0	0	0	1,825,000

(前年度) 実施回数 92回 収入額 2,300千円

3. その他

(1) 地域密着型運営推進会議

令和6年3月26日 参加者5名

(3) 消火訓練・避難訓練の実施

デイサービスの実施中に非常災害が発生したことを想定し、年2回の避難訓練を実施した。災害時においても利用者の安全確保を出来るか検証した。

訓練後に課題となった車いすの介護技術について、職員研修を実施してスキルアップに努めた。

Ⅸ 輪内高齢者サービスセンター

輪内デイサービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉事業の向上を図るため、次のような事業を行った。

①募金事業の窓口として事業を実施。

5月 日赤募金

10月 共同募金

②社協相談窓口業務として地域住民の方から相談を受け、市や介護保険関係事業所との連携を図った。

2. 輪内地区食の自立支援事業（委託事業）

尾鷲市から生活支援型配食サービスの委託を受け、食事を作ることが困難な65歳以上の高齢者の方を対象に、週3回（火、木、土）食事内容の検討及び調理を行い各家庭への配食を実施した。

対象地区	輪内地域 (梶賀、曾根、賀田、古江、三木里、三木浦)
登録者数	28名
延べ配食数	3,433食
事業費	2,234,600円
(うち市補助分)	(861,400円)

地区別登録者内訳

(梶賀4、曾根3、賀田8、古江7、三木里2、三木浦4)

3. 輪内地区あったか弁当事業（自主事業）

市の配食サービスの対象外となる65歳未満の方が同居している世帯の高齢者の方を対象に、自主事業として年間284食の配食サービスを実施し、食事を作ることが困難な方々の負担軽減に協力することができた。

4. 地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業、障がい者通所介護

利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、孤立感の解消や心身機能の維持、家族の介護の負担軽減などを目的として、要支援・要介護・障がい者の方を対象に日常生活上の世話や機能訓練、社会とのつながりを持つ意欲を高めるため、通所介護を実施した。



《サービス内容》

- ・送迎サービス
- ・入浴サービス（機械浴、一人浴、一般浴）
- ・生活指導（健康チェック、音楽鑑賞、レクリエーション、創作活動）
- ・食事の提供

（月別実績）

【地域密着型通所介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	27	25	25	24	26	25
収入額	2,055,051	1,604,466	1,583,604	1,387,458	1,429,821	1,591,407

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	25	25	24	22	23	25	296
収入額	1,635,642	1,527,147	1,535,328	1,383,894	1,446,246	1,787,697	18,967,761

【介護予防・日常生活支援総合事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	6	6	6	6	6	4
収入額	162,405	162,405	162,405	162,405	162,405	108,270

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	5	5	5	5	6	65
収入額	91,125	162,405	143,910	161,055	160,821	231,966	1,871,577

【障がい通所介護】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	2	2	2	2	2	2
収入額	73,100	58,480	58,480	73,100	58,480	73,100

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	2	2	2	2	2	2	24
収入額	51,170	58,480	73,100	58,480	58,480	73,100	767,550

(前年度)	実人数	収入額
地域密着型通所介護	319名	21,118千円
介護予防通所介護	80名	2,460千円
障がい者通所介護	24名	713千円

5. 一般介護予防事業（委託事業）

尾鷲市から通所型一般介護予防事業の委託を受け、市内在住の65歳以上の高齢者の方を対象に、介護が必要な状態にならないことを目標として、運動機能向上や閉じこもり、認知症等の予防事業を週3回、年間151回実施した。

(月別請求額)

【一般介護予防事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	12	13	14	12	11	13
実人数	11	12	11	12	12	12
収入額	300,000	325,000	350,000	300,000	275,000	325,000

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開催数	12	14	13	12	13	12	151
実人数	14	14	14	12	12	12	148
収入額	300,000	350,000	325,000	300,000	325,000	300,000	3,775,000

(前年度)	開催数	189回
	実人数	166人
	収入額	4,725千円